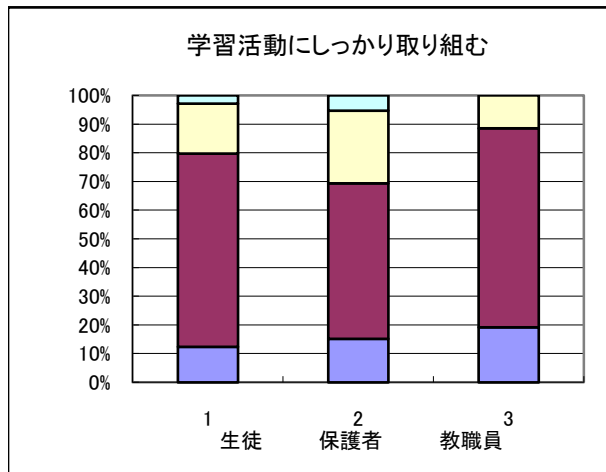
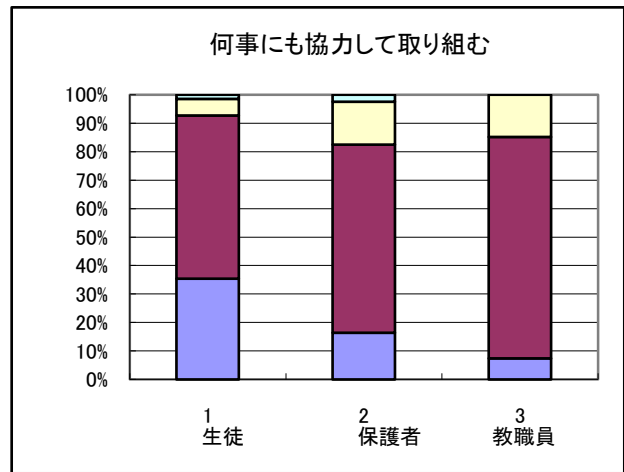


平成23年度6月実施：教育活動アンケート：生徒・保護者・教職員比較

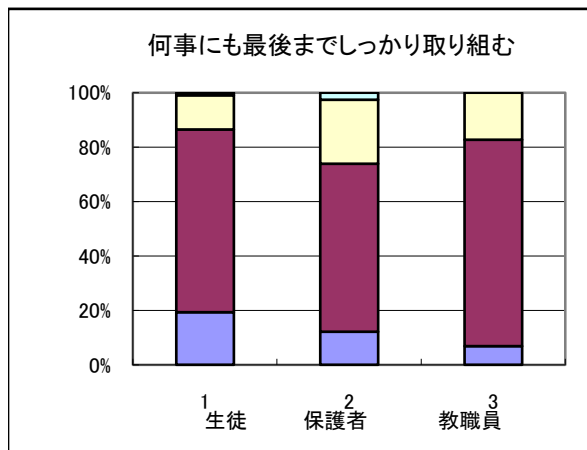


昨年度比較で、「しっかり取り組む」と答えた生徒・教職員の数値はかなり向上している。特に1・3年生では82%～84%と高い数値を示している。しかし、保護者の数値は、昨年同様70%である。生徒は学校での授業に関して答えているのに対し、保護者は授業を見る機会が少なく、家庭学習の生徒の様子から回答されたものと推察される。

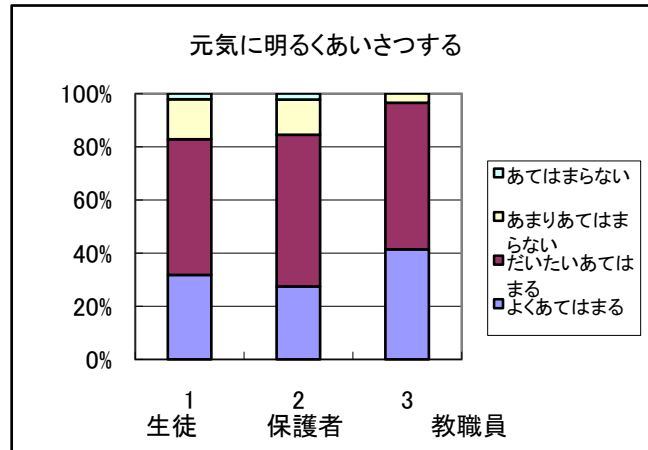
今後も家庭学習の定着と、真面目に授業に取り組む姿勢を中心に指導の充実を図りたい。



学校生活において協力する場面は、学習活動、学級活動、各種委員会活動、学校行事、部活動などたくさんあるが、生徒の日常生活での満足度・達成度を見ると92%の高い数値を示している。充実した学校生活を送れている生徒が多いことがわかる。保護者(82%)、教職員(85%)も高い数値を示しているが、生徒と比較すると低い。この結果から大人から見たところによる協力と、生徒から見た協力の意味合いに違いが表れていると思われる。互いに認めあえる仲間となるよう、今後も指導の充実を図り、保護者や教職員の数値向上に努めることが大切である。

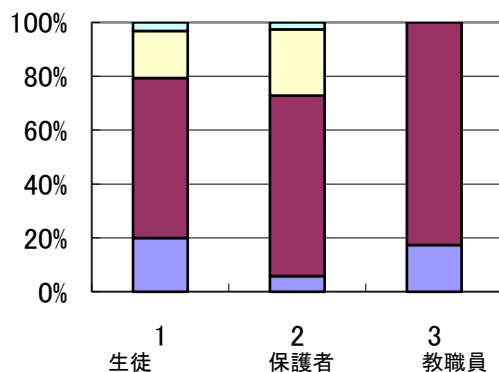


学校生活の中で、生徒(86%)、教職員(82%)が達成感を感じていると考えられるが、「よくあてはまる」と答えた生徒、教職員は昨年度より減少している。この結果から、だいたいできてはいるが、最後までしっかり取り組めてはいないと判断できる。また、保護者の数値が74%という結果から、この項目での満足度が低く、生徒への期待の裏返しでもあろう。学校での生徒の頑張る姿を、保護者に評価していただけるよう、行事や学校公開により、多くの保護者の方に足を運んでいただき、生徒の頑張りを理解していただく機会をつくっていききたい。

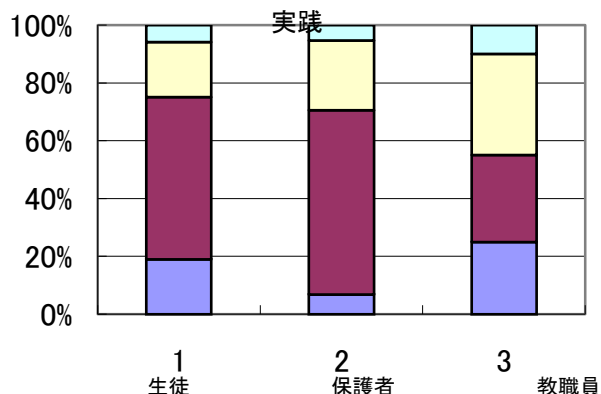


生徒(82%)、保護者(85%)、教職員(97%)という数値から、ほとんどの生徒が元気に明るくあいさつできていると考えられる。学校生活で職員室の出入りや廊下ですれ違う時に挨拶できる生徒が多いため、教職員からの評価が高い。教育ビジョンに掲げた「明るいあいさつ」の取り組みの成果と、日頃の家庭での躾において、挨拶の重要性を教えていただいていることからの結果と推察される。

わかりやすく、ていねいな授業の実践



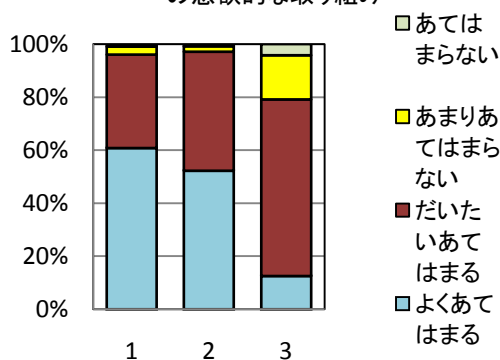
TTや少人数授業による分かりやすい授業



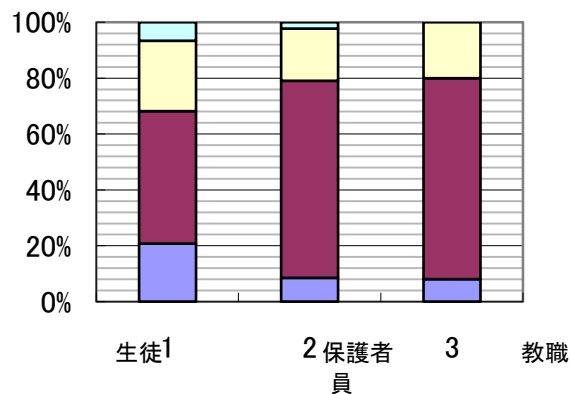
生徒の20%、保護者の25%に満足感が得られていない。これは、教職員はわかりやすい授業実現のための努力や工夫をしているつもりだが、生徒・保護者は、授業規律や自己の基礎基本の理解度の問題ととらえているためと考えられる。今後も生徒・保護者に対して、より多くの満足感を得られるよう、今まで以上に指導内容の充実や、指導方法の工夫を図っていくことが重要である。

TTや少人数教育は、学年や教科が限られているため、「(あまり)あてはまらない」を選択したものと思われる。保護者にもTTや少人数の授業へのなじみが薄い。TTや少人数教育の効果を、生徒や保護者に理解できるよう、情報の発信が重要である。教職員に関しては、TTや少人数の授業を持たない教科が多いが、教職員にはTT、少人数授業により生徒が生き生き活動しているという共通理解がなされている。この次は質問の仕方を考える必要がある。

自然教室、職場体験、修学旅行の学習への意欲的な取り組み

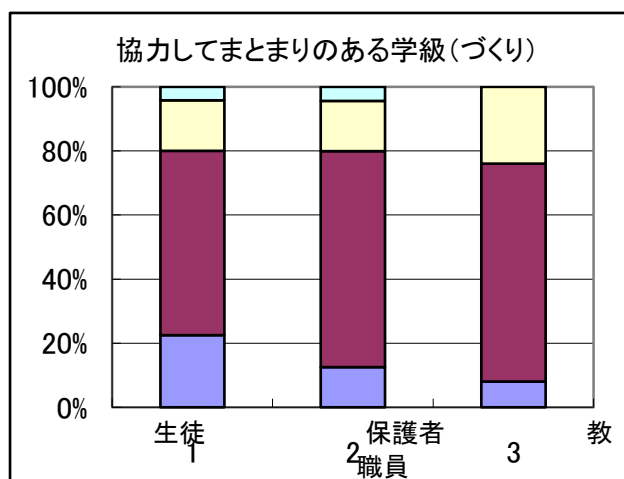
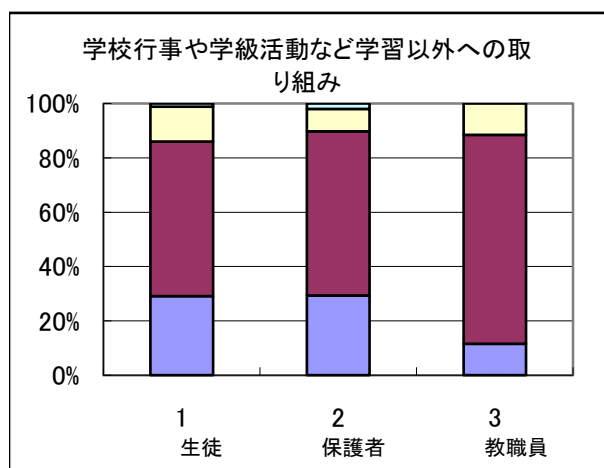


総合的な学習の評価とやる気の育成



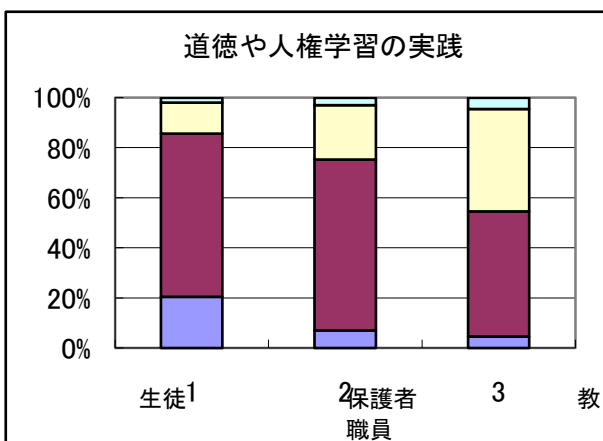
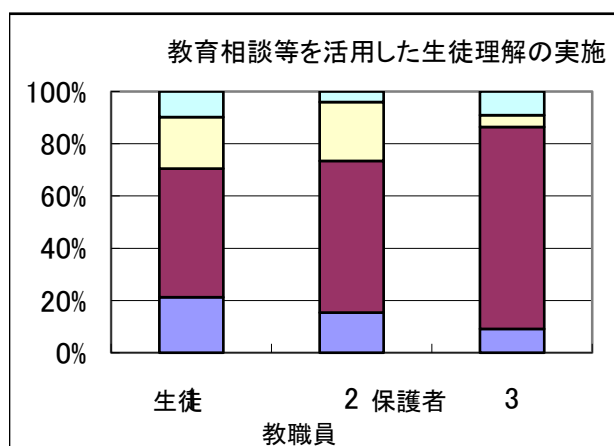
数値を見てわかるように、生徒や保護者の満足度がかなり高いことがわかる。学校での取り組みを、学級・学年通信や学校通信等の広報活動の成果と考えられる。また、家庭においての家族関係が良好で、体験活動等の様子を話す機会が日頃から多くあり、生徒から、保護者へきちんと伝わっているものと推察される。昨年度比で、生徒・保護者の「よくあてはまる」が倍近く伸びていることから、生徒たちがしっかり取り組めたことが理解できる。教職員に関しては、まだまだいろんなことができる生徒が多いため、もっとしっかり取り組ませたかったという強い願いもあり80%という数値になった。

学習の評価は、「テスト」の点数だけではなく、授業への関心・意欲、予習や復習、提出物の完成度、忘れもの等を総合して評価している。(HPIにシラバスを提示)生徒の数値が68%と低いのは、定期テストだけで評価されていると考えているからと推測される。特に1年生にこの傾向が強い。定期テストだけでなく、小テストも含め、前記したことや、毎時の授業が大切であることを、シラバスを活用した指導を行っていくことが重要である。



保護者に関しては、満足度が90%前後の高い数値を示しており、学級・学年通信や学校通信等の広報活動の成果と思われる。生徒に関しては86%と高い数値を示しているが、「よくあてはまる」が30%と昨年度比で5～10ポイント後退している。教職員も88%と数値的には高いが、良くあてはまるは10%で生徒同様、昨年度比で10ポイント後退している。意欲的に取り組もうとしてはいるため、「だいたいあてはまる」を含めると86%～88%の数値になるが、全員が最後までしっかりやりきれるように働きかけたい。

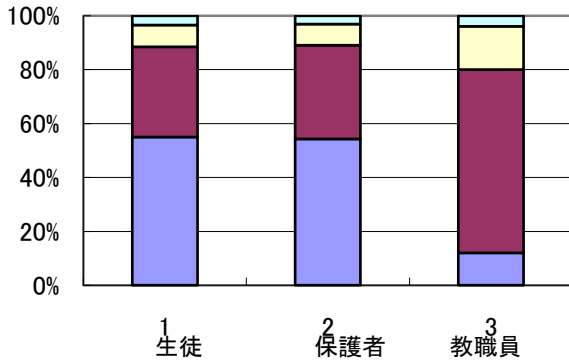
生徒・保護者は80%、教職員は78%と数値的には低くないが昨年度比では若干低下している。しかし、「あてはまらない」と答えた生徒は、1年生で各クラス2人、2・3年生で0～1人という結果から、自分のクラスに良い印象を持っていることも推測される。「あてはまらない」という生徒がいなくなるよう、2学期の行事を通した「仲間づくり」を仕組んでいくことが重要である。



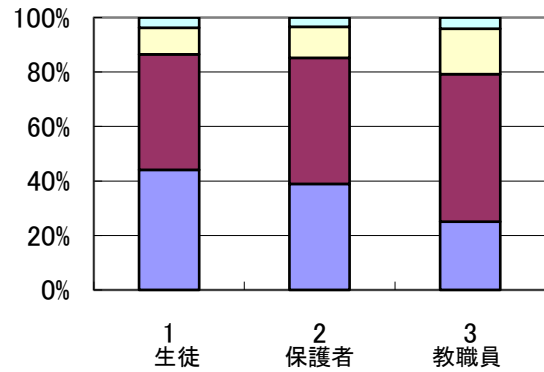
全校で教育相談期間を設け、一人10分間の教育相談を行っていること、日頃から生徒とのコミュニケーションを図るよう努めているため、教職員の数値は高めだが、生徒にとっては、時間的に短いことや相談したい時に話ができなかったり、相談したが、自分の思うような結果を得られなかったことが、数値から推測される。また、生徒は、質問の「先生」を担任として答えを考えているように思われるため、学校長、教頭、養護教諭、学年担当やクラブ顧問等のすべての教職員を対象としているという説明を加えた方が良いように思われる。

教育ビジョンの柱の一つとして取り組んでいる道徳・人権学習を、昨年度に引き続き各学年で統一した指導を行っている成果として生徒の満足度は全学年85%を超えている。しかし、各学年15%の生徒は満足をしていないことから、満足度を向上させるために、今後も引き続き「学んだことを実践する力」の育成に取り組んでいくことが重要である。保護者の満足度を高めるためにも、日頃の学校での取り組みを、通信や学校開放等を通して発信し、理解していただくことが必要であると思われる。教職員について、1学期はどの学年も、修学旅行や自然教室、職場体験に家庭訪問等の学校行事を活用した仲間づくりや、実態把握を中心に取り組んでいる。教職員は、日頃から道徳・人権学習に取り組んでいるものの、授業としての実践という判断をしたため、低い数値になっている。年度当初の実態把握をもとにした授業実践が多くなる2学期以降に期待していただきたい。

異年齢集団による部活動



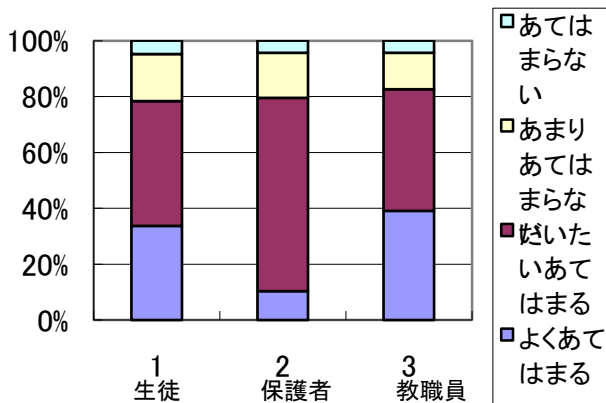
達成感をもてる部活動



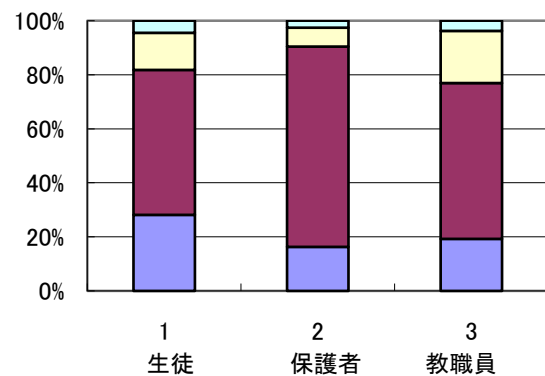
生徒・保護者ともに、「良くあてはまる」「だいたいあてはまる」で90%前後、教職員は80%という数値から、部活動において好ましい人間関係が作りができていられるのだと思われる。しかし、生徒は上級生になるにつれ、その割合はやや低下してきているように思われる。部活動を継続していくなかで、上級生には下級生の手本となり、下級生が上級生に憧れを抱くような関係となるよう、指導を継続していくことが大切である。

生徒・保護者ともに、「良くあてはまる」「だいたいあてはまる」が88%、教職員は80%という数値から、しっかり取り組んでいる様子がうかがえる。特に1年生は生徒・保護者ともに、「良くあてはまる」「だいたいあてはまる」で90%～95%の高い数値を示し、しっかり取り組んでいると考えられている。しかし、学年が上がるにつれ、数値が低下している。上級生が部活内でリーダーとなり責任感を養ったり、最終的に達成感をもてる部活動となるよう、学校全体で部活動を活性化していく方策を考え、実践していきたい。

情報発信：学校の様子が伝わっているか



学校施設の安心安全



「良くあてはまる」「だいたいあてはまる」の数値は、昨年度比で生徒では向上し、保護者・教職員では2ポイント程度減少している。「良くあてはまる」の割合を見ると、1年生では45%、2年生については29%、3年生は27%と学年が上がるにつれ、数値が低くなっている。これは、生徒・保護者とも中学校生活に慣れ、家庭において学校での話題が減っていることが考えられる。また、思春期に入った影響もあると推察される。今後も学校の様子が正しく伝わるよう、学校通信や学年・学級通信、ホームページの充実を図っていくことが大切である。

「良くあてはまる」「だいたいあてはまる」と答えている生徒は83%、保護者は91%と高い水準を維持している。教職員はより安全設備を願う点から、77%という数値になっている。「あまりあてはまらない」「あてはまらない」と考えている生徒・保護者がいる以上、安全でない部分があると考えられるので、改善していくことが必要であると考えられる。